ホオズキの系統選抜による着果率の向上					
［要約］ホオズキの着果率は系統によってばらつきがあり、着果率の高い系統を選抜していくことにより、着果率の向上を図ることができる。また、着果率には産地や年次によってばらつきがみられることから、着果率が高位安定化している系統の選抜に努める。					
担当部署	八女分場・中山間地作物研究室			連　絡　先	0943-42-0292
対象作目	花き・花木	専門項目	品種選定	成果分類	品種選定

［背景・ねらい］

ホオズキはナス科の多年草で、盆を彩る風物として全国的に安定した需要がある。本県では築城、福岡および八女地域で約６haほどが栽培されている。しかしながら、ホオズキの取引価格は産地によって異なり、これは主に着果率の良否に起因するものと考えられる。

そこで、着果率の向上を図るため、系統選抜の効果を明らかにするとともに、県内各産地より着果率の良好な系統を収集、選抜する。

［成果の内容・特徴］

１．選抜がなされていない圃場の場合、ホオズキの着果率は株により大幅にばらつく（図１）。これらの中から着果率の高い系統を選抜すると、各節位とも１年目および２年目まで高い着果率を維持できる（図２）。

２．県内の産地３地域、１３圃場から収集した系統の着果率は、８０～４０％のばらつきが見られる（図３）。また、系統によっては、着果率の年次変動が見られる（図４）。このため、着果率が高位安定化するまで優良系統の収集と選抜を継続する。

［成果の活用面・留意点］

１．各産地において系統選抜を行う際の参考資料として活用できる。

２．着果率の良否の判定節位は６節～２０節前後とし、選抜株には収穫前までにマーキングしておく。

［具体的データ］

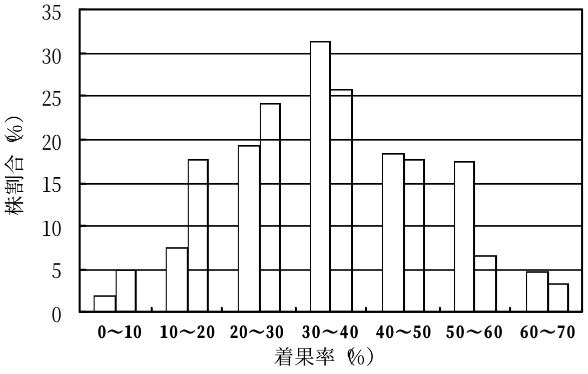

図１　株選抜されていない圃場の着果率別の株割合

注）株選抜がされていない圃場から1999年１月中旬に地下茎を無作為に採取し、同年１月下旬に分場内圃場に定植

□ほ場周辺部　□ほ場中央部

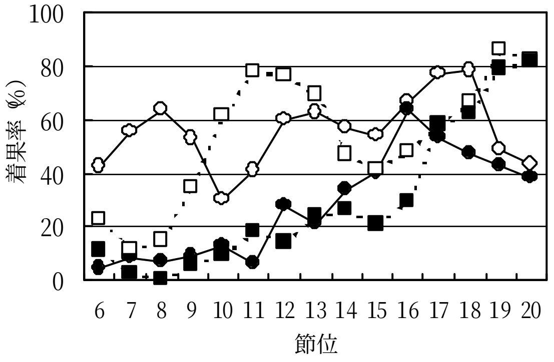

図２　株選抜された系統の着果率の節位別年次変動

注）着果率の高い選抜系統：図１の60～70%の株
着果率の低い選抜系統：図１の 0～10%の株

高い系統１年目(2000年)
低い系統１年目(2000年)
高い系統２年目(2001年)
低い系統２年目（2001年）

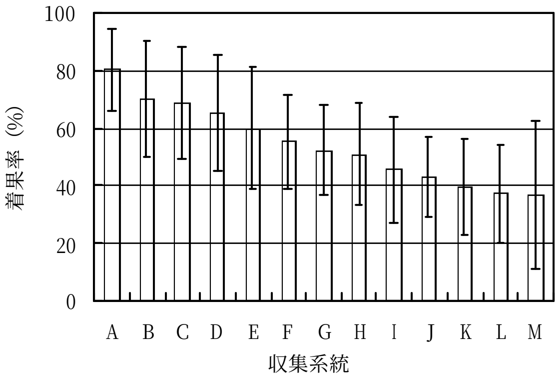

図３　収集系統の着果率（2000年）

注1）県内産地３地域、13圃場から1999年12月～2000年１月上旬に着果率の比較的良好な株の地下茎を採取し、2000年１月下旬に分場内圃場に定植
2）第６～第20節位の着果率
3）棒線は標準偏差で１区12株２反復の株間のばらつきを表す

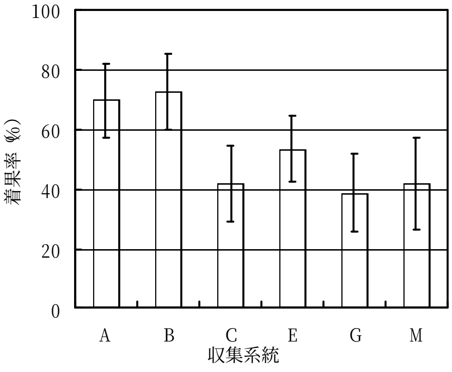

図４　収集系統の着果率（2001年）

注1)図３の各試験区から2001年１月上旬に地下茎を無作為に採取し、１月下旬に分場内に定植
2)A，B，C：図3での着果率60%以上の系統
E，G　：図3での着果率40～60%の系統
M　　：図3での着果率40%未満の系統
3)第 6～第20節位の着果率
4)棒線は標準偏差で 1区12株 2反復の株間のばらつきを表す

［その他］

研究課題名：ホオズキ７月上中旬出し雨よけ施設栽培技術の確立

予 算 区 分：県特

研 究 期 間：平成１２年度（平成１１～１４年）

研究担当者：月時和隆、林　三徳

発表論文等：福岡県農業総合試験場　研究報告２１号

平成１３年度　八女分場中山間地作物研究室試験成績概要書